



地域のなかで大学が果たす役割 : 10 年の活動を振り返って

市沢, 哲

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 12:35-35

(Issue Date)

2014-02-02

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005451>



地域のなかで大学が果たす役割－10年の活動を振り返って－

報告 神戸大学 市沢 哲

1. 活動が始まったころに考えたこと－富松の活動から
 - ・ 立場や得意技のちがう人々(自治体、住民、大学)の協業に対する可能性へのめざめ→地域連携活動の「基本型」
 - ・ 関係が生み出す新しい場やかたち－展示会やHP上の博物館－の新鮮さ
 - ・ その一方で、協業の結果、どのような地域の歴史像が提示されたかについては、十分に意識が向かなかった。

2. 人材育成へ－大学の関わり方の探求－
 - ・ 地域連携活動を大学の活動(研究・教育・プロジェクト)として位置づける→人材育成へ
 - ①活動のパートナー・コネクターとなる人の重要性
地域の歴史に対する関心の持ち方、勉強のしかたの多様化
「人材育成」という語感
大学が「お墨付き」を与えるのか？
 - ②大学教育を地域連携活動とリンクさせる
地域の歴史を研究する社会的意味を問う
「よそ者」が「当事者」になることへの注目
受講生に地域連携活動の意味が浸透するとともに、「お題目化」も生々しさを感じながら勉強するためには？

3. 大学の役割とは何なのか？－歴史学の来歴－
 - ・ 地域の歴史は誰のものか
 - ・ 棲み分けか、コンセンサスの形成か
 - ・ 歴史学という学問の来歴とこれから